

「市立福知山市民病院大江分院が厚生労働省から再編統合 の必要な病院として取り上げられたことについて」

厚生労働省は 9 月 26 日、公立・公的病院の 25%超にあたる全国 424 の病院について「再編統合について特に議論が必要」として病院名を公表しました。その中で市立福知山市民病院大江分院の名前が挙げられたことにつきましては、市民の皆さまは戸惑いと不安を感じられたことと思います。

ここで、市立福知山市民病院として今後の大江分院の運営方針を説明させていただきます。

大江分院は、平成 27 年に国保新大江病院を引き継ぎ市立福知山市民病院の分院としてスタートをきりました。以後、訪問診療を開始するなど在宅医療の強化を図るとともに、在宅医療を支える人材育成に努めてきたところであり、それに応じて医療機能の増進はもちろん経営状態も好転してきました。また本院とチームを組んで総合診療医の育成にも努め、さらに市民病院をはじめ他の医療機関の後方支援施設としての機能も果たしてきたところです。

一方、福知山市の人口が、年々減少している現状を踏まえ、開院当初よりそれに応じた病床のダウンサイジングや機能分化・集約が必要と考え計画を進めており、本年 8 月には分院病床の 4 床を本院に移転し、72 床から 68 床に減床を図ったところでもあります。

今回の公表された再編統合の定義にはダウンサイジングや機能分化・連携などが含まれていますが、前述したように既に進めているものであり、今後も取り組んでいく予定です。



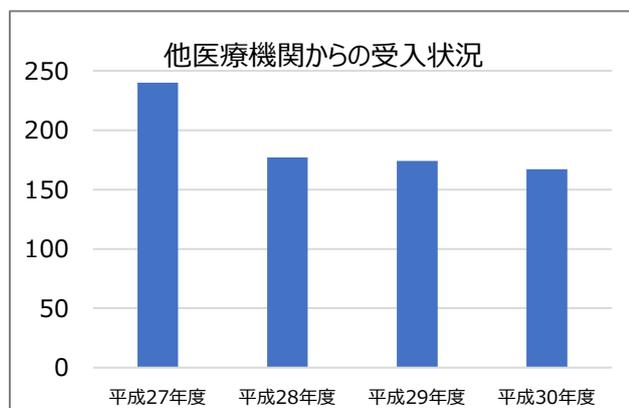
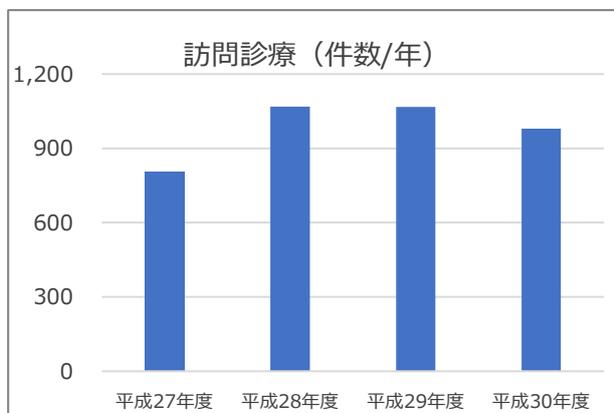
今後は、京都府における地域医療構想調整会議で議論するところではございますが、地域の皆さまの医療環境を守るべく真摯に対応して参りますのでご安心ください。

福知山市病院事業管理者 香川 恵造

● 大江分院の状況 ●

〈在宅医療の取り組み〉

大江分院では、開院直後から訪問診療を開始しました。平成28年度以降は年間1,000件程度の訪問診療を実施しています。また、訪問看護、訪問リハビリテーションも実施しており、地域における在宅医療の推進に努めています。

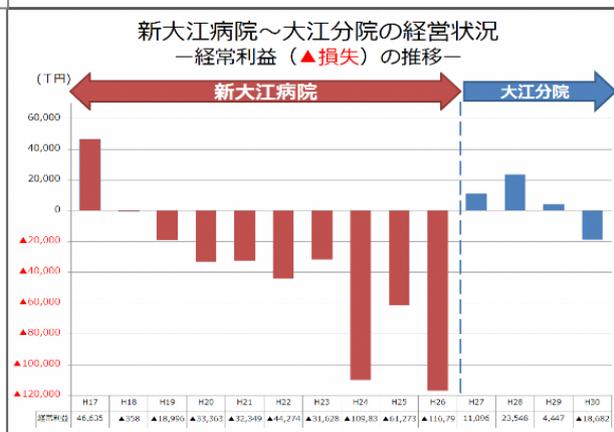


〈後方支援施設として〉

市民病院をはじめ他の医療機関から、急性期を脱した回復期、慢性期の患者さんの転院を積極的に受け入れ、適切な医療を提供しており、後方支援施設としての機能も果たしています。

〈経営の状況〉

右のグラフのように、経営状況は分院化以前に比べ著しく好転しています。平成30年度は純損失を計上しましたが、さらなる効率化を図り、経営安定に努めてまいります。



市立福知山市民病院大江分院

理念 基本方針

命と健康を守り、信頼される病院

1. 市立福知山市民病院の分院として、地域住民が安心できる医療を提供します。
2. 地域における在宅医療を推進し、総合的な医療を提供します。
3. 医療情報の共有化を図り、地域医療の向上を目指します。
4. 若い医療者の育成を通じ、輝く病院づくりに努めます。
5. 経営安定に努めます。